



海軍少将舟木鍊太郎敘勲

右謹件裁可ヲ仰ク

大正十二年十月二十七日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛



内

閣



223

賞勳局第二四六號 大正十二年十月廿七日

大正十二年十月廿七日 内閣賞



内閣書記官



賞勳局

内閣總理大臣 倚

賞勳局總裁



海軍少將從四位勳五等功四級舟木鍊太郎儀
ハ明治九年五月海軍少尉補ニ出身以來諸官
職ヲ歴日清戰役ニ際シ功績アリ同二十九年十
一月勳五等瑞寶章ヲ叙賜セラレ同三十五年
五月現官ニ任セラレ同時豫備役被仰付タル者
ニ候處其間同三十年四月威仁親王殿下大不
列顛國皇帝陛下即位六十年祝典ニ參列セ

賞勳局

ラルルニ際シ其隨行ヲ被仰付尚ホ其後艦長
海兵團長等ノ職ニ在リテ盡瘁シ功績顯
著ナル者ニ候處目下病氣危篤ノ趣ニ付
此際特ニ勳四等ニ叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ
度此段允裁ヲ仰ク

追テ本件擬叙勳等ニ付テハ主務省ト協
議濟ニ有之候

内閣 海軍 第三九子

海軍人第四二三號

海軍少將從四位勳五等功四級舟木鍊太郎
右者明治九年五月海軍少尉補任官以來
來身軍職奉スルコト實ニ二十六
年久シキ亘リ其間海軍兵學
校教頭大和艦長金剛艦長吳海兵
團長高千穂艦長富士艦長横須賀
海兵團長等樞要職ニ歷任終始
一貫精勵克ク其任ニ盡シ功績顯
著ナリ殊ニ日清戰役際ハ大和艦
長旅順口海軍根據地海兵團長金
剛艦長トシテ作戦行動其他ニ功
績アリ明治三十年四月成仁親王殿

下大不列顛國皇帝陛下即位六十
年祝典ニ隨行シ被仰付其後艦
長海兵團長等職ニ在リテ盡瘁
ニ功績顯著者有之候處不幸
ニシテ病ニ罹リ今ヤ危篤ニ臨リ
到底存命覺束ナク候ニ付テハ特別
御詮議ヲ以テ叙勳三等瑞寶章
ヲ授賜セラレ度此段及上奏候也
大正十二年十月二十七日
海軍大臣 財部 彪

225

履歷書

原籍地 東京市麻布区材木町五番地
 東京府士族海軍少尉正五位勳五等瑞紋舟木鍊太郎

安政三年正月六日生

明治九年	正月二十七日	少尉補ニテ地中海ニ鎮英同軍艦「サ」 タニ號へ乗組
明治十四年	八月十日	任海軍中尉
明治十五年	九月八日	任海軍大尉
	十月五日	敘正七位
明治十九年	七月十四日	海軍大臣秘書官心得被仰付
明治二十年	十月五日	任海軍少佐
	十月二十七日	補海軍大臣秘書官
明治二十三年	一月十三日	補扶桑副長
海軍		
明治三十四年	七月二十一日	補子珠艦長
	七月二十三日	補日進艦長
	七月二十四日	補赤城艦長
明治三十五年	七月二十三日	任海軍大佐
	同日	敘高等官四等
	同日	補海軍兵学校教頭
明治三十七年	七月二十日	補大和艦長
明治三十七年	七月二十日	清國ト開戦
	七月二十日	補旅順口海軍根據地海兵團長
	七月二十日	陞敘高等官三等
明治三十八年	二月一日	敘正五位
明治三十八年	九月二十七日	明治三十八年戰役、功に依り功四級金鷄 勳章並に二年金百兩及學先旭日章

明治全史十三行録紙

(加録納)

276

